

新刊紹介

どの頁を開いても、大
学関係者にとって示唆に
富むデータと分析、価値
ある指針がある。本の帯
の前半に、著者の立ち位
置。へ長く政策立案に携
わってきた高等教育研究
の泰斗が、彷徨する大学
の未来像を、いま一度、
歴史から見直す」

まえがきは、高等教育
の歴史をドラマティック
に描く。へ臨教審の答申
で設置された大学審議会
が出した）一九九一年の

チン・トロウとパート
ン・クラークの研究を手
掛かりに、質保証、認証評

価、建学の精神、大学全入
などに指針を与える。

へ(質の保証) 政府・文
部科学省や入学者選抜制
度だけに依存することは
不可能であり、許されな
いこと」とし、大学教
員、評価システム、大
学・大学団体、学協会が
正面から責任を持って取
り組むべきと主張。

アメリカの緩やかに連
結している高等教育シス
テムと比較、へ(大学団体
は)クロスドな親睦団
体的な性格のもの。どこ
まで、高等教育システム
に形を与える能力を持
ちうるのか。それが、将来
を見通すうえで極めて重
要な問題」

へ(いまなぜ建学の精神
か)大規模化・マス化に
よって大学が忘れ、失っ
てきたものを取り戻す作
業それが「建学の精神と
いう言葉で語られている
のではないか」

帯の後半。へ熾烈な「自
由と競争」政策下でユニ
バーサル時代を迎え、大
学は自らの手でその将来
像を示さなければならな
い。著者の大学に対する
愛情と叱咤をみる。

(狸)

「大学改革を問い直
す」、天野郁夫著、慶應
義塾大学出版会、Ⅷ〇三
―三四五―一三五八四、
定価二八〇〇円十税



「大学改革を 問い直す」 天野郁夫 著

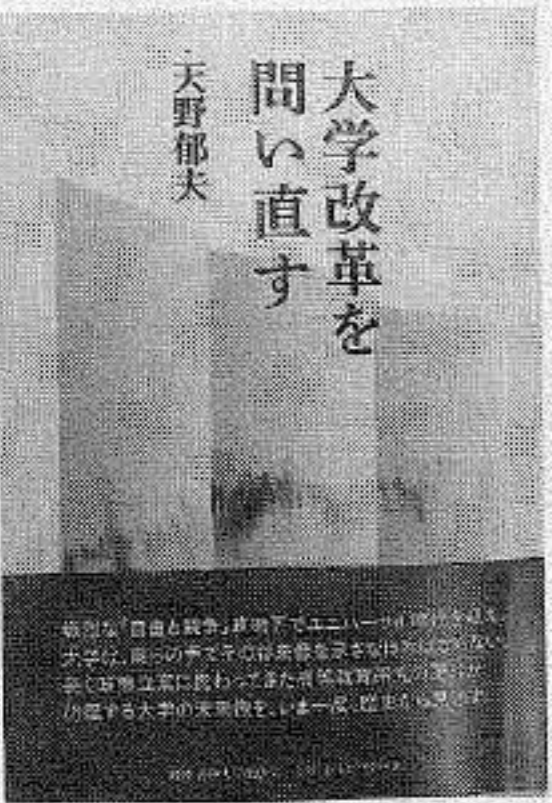
答申「大学教育の改善に
ついて」が学部教育、大
学のあり方を大きく変え
る役割を果たした」

へ大学審議会が幕を閉
じ中教審に議論の場が移
る頃、大学を取り巻く環
境は大きく変わり始めて
いた。二〇〇〇年代に入
ると、〇一年の「遠山プラ
ン」など国際競争に勝ち
抜くための政府主導の改
革が急展開し始める」

現状の大学改革をへ財
政的な措置による「政策
誘導」の形で次々に実施
されている」とし、マー

大学改革を 問い直す

天野郁夫



「お詫びと訂正」七月
三日付四面の「われら大
学人」の記事の略歴で

「うえだ・たつや」とあ
るのは正しくは、「うえ
だ・たつや」でした。